

'17

前期日程

社会小論文

(教育学部)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は1冊(4頁)、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 氏名と受験番号は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

1 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

歴史を学ぶ目的は、人によってさまざまだと思いますが、いまの現実がなぜそうなっているのかを、歴史をひもとくことによって解明し、未来への方向を考えてみることも大切ではないでしょうか。(中略)

歴史を学ぶときに、もうひとつ考えなくてはならないことは、日本とアジア諸国との間に存在する、直接に歴史にかかわる問題です。(中略)

これらの歴史問題については、日本のなかでもさまざまな意見の違いがありますが、いずれにしても問題の解決のためには、日本とアジアの歴史の事実を知ることが欠かせません。

その場合、いまに直接つながる近現代の歴史を深く知ることがとりわけ大切なことはもちろんですが、近現代日本のあり方は前近代からの歴史に規定されている面があります。いま重視しなければならないアジアとの関係も、沖縄や北海道など本土の中央政権の支配が及んでいなかった地域のことも、ジェンダーの問題も、前近代の歴史を知らなければよくわかりません。また、それぞれの時代が直面していた課題がどのように乗り越えられて解決し、社会が変わっていったのかを学ぶことも、未来を考えるために大事でしょう。

ところで、歴史は学校で必ず学びます。小学校と中学校で日本を中心とした歴史をくりかえし学び、さらに高校では必修の世界史のほかに日本史をもう一回学ぶこともできます。しかし学校で歴史をどう学んでいるかということになると、まだ多くの問題が残されています。いろいろと工夫をこらした授業もおこなわれていますが、一般的には「暗記もの」として、試験をクリアするために用語や年代を覚えるだけに終わってしまう場合が多いと言えます。(1)最近は入学試験でも近現代の比重が大きくなってきましたから、近現代に時間をかけるように変わってきた面もあります。しかしどれだけ時間をかけても、暗記だけで終わったとすればあまり意味がありません。いま直面しているさまざまな問題をどう解決するのか、その方向を意識しながら歴史を学んでいるかといえば、なかなかそうってはいないというのが現状だと言わざるをえないでしょう。

けれども、きっと多くの学生・生徒のみなさんも、社会人として生きるみなさ

んも、過去を知り現在と未来を考える糧^{かて}となるような歴史を学んでみたいと考₍₂₎えておられるのではないですか。

出典：歴史教育者協議会編『日本社会の歴史 上 原始・古代～近世』大月書店，
2012年(出題の都合上，一部表記を改めた。)

問 1 下線部(1)で，歴史は「暗記もの」になりやすいと筆者は言っています。歴史の授業が「暗記もの」になりやすいのはなぜか，あなた自身の経験もふまえて述べなさい。(300字程度)

問 2 下線部(2)について，歴史を学ぶことが，過去を知るだけでなく，現在や未来を考える糧になり得るのはなぜか，あなたの考えを述べなさい。(300字程度)

2 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

自分が幸福になるためには、何が必要なのだろうか。そのことを考えた場合、最も重要なことの一つは、間違いなく、自分がどんな世の中に暮らすかということであろう。(中略)極端な話、どんな時代、どんな世の中に生きるか否かが、その人物の運命に決定的な影響を与えるのである。となると、私たちは、まさに自分自身のために、政治や社会のことを考える時間や空間を重視しなければならないことになろう。全員共通の利益——全体利益ではない——こそが、その一員たる自分の利益だからである。そのこともまた、すでにルソーが指摘していた。(中略)

忙しいから、政治や社会のことを考えないのではない。むしろ、人々が政治や社会のことを考えるために時間や空間を割かないからこそ、「悪い政府」が生まれ、誰もが「仕事に忙殺される」ようになるのである。これこそ、悪循環の典型なのだ。そのことに、気づかなければならない。この悪循環を断ち切らなければ、知識でさえ「権力の暴走を抑止し、文明の水準を保つ」ための機能を全く果たさないのである。

子どもたちから「なぜ勉強しなければならないのか？」と問われたとき、現代日本の大人たちは、いったい何と答えるであろうか。自分だけは困らないために、有利な就職のために、勝ち組入りするために、負け組にならないために、他人を出し抜くために……。だから、学歴、資格、検定、お受験……。ならば、選挙の際には、そのような動機で身に付けた知識を何のために用いるのか……。これでは、「知識を持つ者に見識や判断力がある保証はない」という奇妙な事態が生まれても、何ら不思議ではなからう。私たちは、なぜ多額の税金を使ってまで公教育制度を維持し続けているのか。⁽¹⁾その理由が、どこの先進国でもやっているからというのでは、単なる猿真似に過ぎず、説明にさえなっていないのである。

19世紀のミルが、「普通教育が普通選挙権に先行しなければならない」と主張したのは、選挙権を与えるということが「他の人びとおよび共同社会全体を支配する権力」を与えることに他ならないからである。教育は、私利私欲の手段ではない。⁽²⁾自分たちが幸福になるために、みんなで世の中を良くすること。この大前

提を見失ってしまえば、公教育も普通選挙法も全く無意味なのである。

出典：薬師院仁志「ブラック・デモクラシーと一筋の光明」、藤井聡編『ブラック・デモクラシー 民主主義の罨』晶文社、

2015年(出題の都合上、一部表記を改めた。)

問 1 下線部(1)について、筆者はなぜ多額の税金を使って公教育制度を維持することが必要だと考えているか、本文中から読み取ってまとめなさい。(200字程度)

問 2 下線部(2)について、どうすれば教育という手段によって世の中を良くすることができるか、あなたの考えを述べなさい。(400字程度)